



乙島っ子

令和3年度 NO. 39

令和3年12月24日 倉敷市立乙島小学校



2学期のしめくくりの日…

— 「工夫」の振り返り —

いよいよ今日で2学期もしめくくりです。これまで、「工夫」を合言葉に取り組んできましたが、日々の授業と同じように、「振り返り」をします。

左は、4年生の児童の「自主学習」のノートです。10月20日の「体育参観日」の終わりの式でも紹介しましたが、「走るコツ」を調べたこの学習には、「のびのび うんどう」を「工夫」する姿もちろん確認できますが、そのことを自主学習で追究しようとしているところに、「いきいき べんきょう」の姿も確認できます。また、「いきいき べんきょう」は、これまでもそうでしたが、「授業中、よく手を挙げて発表する」姿だけでなく、「『自分のめあて』をもって、『自分なり』に、成長を目指し取り組む」姿であることを再認識します。つまり、「工夫」を追う中で「本質」が見えてきます。

「にこにこ」「いきいき」「のびのび」「いそいそ」の「本質」

「にこにこ あいさつ」

…本質：「なかよく」

「本質」とは、辞書的には、「物事の根本的な性質・要素。そのものの、本来の姿」とありますが、これを考える際、例えば、「『にこにこ あいさつ』で、『会釈』という『工夫』をすると、なぜいいのだろう」と、「なぜ」を考えるようにします。すると、「された相手がいい気持ちになるから」「その人とよい関係が築けるから」などの意義が見えてきます。児童には、共有しやすい概念として、「なかよく」という言葉を提唱しました。

「いきいき べんきょう」

…本質：「いきかた」

これについては、冒頭の説明のように、「授業中、よく手を挙げて発表していきえすれば、『いきいき べんきょう』しているといえるか」と問うことで、「発表しなくても、自分から進んで、よく考え、友達や先生から教わり、『分かる』『できる』ことが達成されればよい」…などのことが見えてくると考えられます。児童には、それを「いきかた」と説きました。



教員も「いきいき べんきょう」

「のびのび うんどう」

…本質：「けんこう」

これについては、児童と共有を図るには、いささか時間がかかると思われれます。「業間休みには、特別な事情がない限り外に出て元気に遊ぶ」…このことの「意義」や「目的」を考えると…。「基礎体力」「抵抗力」などの言葉と確認したいものです。



「いそいそ」→「なかよく」

「いそいそ さぎょう」

…本質：「こうきょう」

これについては、更に難解かと思われれます。清掃や奉仕活動は、「みんなのために」行っていること…。つまり、「公共」の理念がそこにあります。右は、「ピッカピカ遊び」…「公共」が「なかよく」につながっています。